

郷土史年表シリーズ2

渋川史年表

【旧・渋川町、金島村、豊秋村、古巻村】



オフィスSEKI

刊行にあたって

人が住んでいるすべての土地には、必ず歴史があります。しかし、書かれない歴史は必ず忘れられます。記録も記憶も年々失われていく一方です。

自分たちの歴史は自分たちの手で残さなければなりません。

この「渋川史年表」は、オフィス SEKI が発行する郷土史年表シリーズの第2巻です。ここに記載されている歴史は、昭和29年（1954年）に誕生した旧・渋川市（渋川町、金島村、豊秋村、古巻村）近辺での出来事を中心に構成され、いわば近所史の集合体とでもいうべき郷土史です。

自分たちの郷土の歴史を知りたければ、この薄い冊子のページをめくるだけで事足ります。誰でも手軽に郷土の歴史をたどることができます。

なお、旧・渋川市では「渋川市誌」「渋川市歴史年表」を刊行していますが、1993年版を最後に更新がとだえ、それ以降が市の歴史の空白期間となっています。

また、当時多大な労力と時間をついやして編集した「渋川市誌」も、今となってはすっかり見かけなくなりました。市の図書館でさえ貸出しが禁じられ（館内閲覧は可能）、市民のみなさんが郷土の歴史に接する機会はほとんどなくなりつつあります。

そこで、そうした市史の空白を埋め、あわせて広く市民のみなさんが、渋川の歴史を容易に知ることができるように、今回新たに「渋川市年表」を編集しました。

私たちは、年表に記されたすべての先人たちの事跡の結果として、いま現在に居ます。これまでのあり方を振り返ることは、これから先の将来を考えることでもあります。郷土史年表は単に過去を記録するだけのものではありません。これから先の将来を考えるのに欠かせない史料でもあるのです。

未来が見えなくなったら、過去を振り返ってみましょう。きっと先人たちの残したヒントがあるはずです。

オフィス SEKI では、日本国中のそれぞれの小さなふるさとで、こうした小さな郷土史年表が編まれ、自分たちの歴史を見つめ直し、自分たちの手で後世に残す文化的営為が広まることを願ってやみません。

時代	国 史	政 治	文 化
先 史 時 代	縄文式文化時代 弥生式文化時代 ・村の発生、小国家できる 紀元前1世紀頃 ・倭、小国分立する	2万年～1万1000年前頃 ・行幸田山遺跡のローム層中から擦石、剥片石器、礫器などが出土 7000年前頃 ・有馬城ノ上西遺跡、半田南原遺跡で、おとし穴猟の穴が発見 6000年前頃 ・中筋遺跡、半田南原遺跡、後田東遺跡で集落を営む 5000年前頃 ・行幸田山遺跡などで大規模な環状集落が形成 4000年前頃 ・空沢遺跡で敷石住居や孤状列石遺構を確認 紀元前300年頃 ・川島の南大塚遺跡で再葬墓（洗骨葬）の壺など確認。土器に籽痕があり稲作の普及を示す 紀元前100年頃 ・弥生時代中期の中村遺跡で環濠集落が確認	【シブカワの語源】 ・平沢川上流の黒沢、中沢、砂居沢の3川が入沢あたりで合流し3川を止めるところから渋川となった説 ・利根川と吾妻川が落合で合流し水勢が急に洩るからという説 ・金井境にある渋沢の泉からとった説 ・アイヌ語起源説 ・渋とは鉄分を含んだ悪水、またはその沈殿物、あるいは溜まっていた水が湿地や泥地などで溜まっている所の意と思われ、赤茶けた水が淀んだ湿地や沼地から流れる様から渋川となった説（榛名山ニッ岳噴火が要因か）
	57年 ・倭の奴国王、金印を受ける 2世紀 ・崇神の子活目尊（垂仁天皇）即位	100年頃 ・有馬、有馬条里、中村、中筋などの遺跡で集落と礫床墓が確認され、ガラス玉、銅製や鉄製のプレスレット、剣などが出土	
		300年頃 ・有馬遺跡から北陸系土器が出土	
	4世紀 ・ヤマト政権の統一進む	350年頃 ・有馬条里遺跡住居跡、行幸田山遺跡の首長墓から東海系や畿内系土器が出土	
	5世紀 ・倭の五王、巨大古墳築造	400年頃 ・榛名山ニッ岳付近の大爆発で当地の集落、田畑、古墳などが埋没、中筋ムラが被災	
		500年頃 ・中村、有馬、有馬条里、石原東遺跡などで田畑が確認される	
	538年 ・仏教公伝 ・この頃、祖先崇拜の気運盛ん 物部氏と抜針神社 上毛野氏と赤城神社	538年 ・この頃、阿利真公（ありまのきみ）、現在の有馬周辺に伊香保神社創建か（尾崎氏論文）	
		550年頃 ・榛名山ニッ岳付近が大爆発。当地の集落、田畑、古墳などが埋没、黒井峯ムラが被災	
	587年 ・蘇我馬子、物部守屋を滅ぼす		
	飛 鳥 時 代	593年 ・聖徳太子が推古天皇の摂政に	
		600年頃 ・古墳時代最末期の精巧な横穴式石室の虚空藏塚古墳、金井古墳などが造られる	
607年 ・遣隋使派遣			
	630年 ・第1回遣唐使派遣		

時代	国 史	政 治	文 化
飛鳥時代	645年 ・大化改新 ・諸国に国司、郡司を置く	645年（大化元年） ・この頃、伊香保神社が国司の保護下で現在の有馬周辺において隆盛	
	673年 ・天武天皇即位		
	701年 ・大宝律令できる		
奈良時代	710年 ・平城京遷都 (奈良時代はじまる)		
	712年 ・古事記できる		
	720年 ・日本書紀できる ・その後、万葉集できる		720年（養老4年） ・万葉集東歌中に9首、伊香保を詠んだ歌が載る
時代		763年（天平宝字7年） ・この頃、金井製鉄遺跡で多くの鉄を鑄る ・中筋、半田中原、南原、有馬条里遺跡で計画的村落が作られる ・行幸田、有馬地区に条里水田作られる	
	784年 ・長岡京遷都		
平安時代	794年 ・平安京遷都 (平安時代はじまる)		
	804年 ・最澄、空海入唐		
	805年 ・最澄、天台宗を開く		
	806年 ・空海、真言宗を開く		
		815年（弘仁6年） ・「新撰姓氏録」編「右京皇別上」に阿利眞公に垂水公の姓を賜ったとある ・この頃、半田中原、南原地区に集落が営まれる。この集落近くに「有馬島牧」の所在地を推定	
		818年（弘仁9年） ・上野（こうずけ）国を中心に大地震（推定マグニチュード7.9）。半田中原、南原遺跡に大地割れ跡あり。この災害以後、これら2遺跡の集落が消滅したと考えられる	
	858年 ・藤原良房、初の人臣摂政		
時代		880年（元慶4年） ・伊賀保（いかほ）神が従四位上、甲波宿禰（かわすくね）神が従四位下、若伊賀保神が正五位上となる	
	887年 ・藤原基経、関白となる		
	894年 ・遣唐使廃止		
	901年 ・藤原道真、太宰府左遷		

時代	国史	政治	文化	
平	905年 ・古今和歌集成 ・この頃上野十二社定められる		905年（延喜5年） ・壬生忠峯の長歌（古今集）に「いかほぬま」が詠われる	
	927年 ・延喜式完成	927年（延長5年） ・「延喜式・神紙十・神名下」の上野国十二座の群馬郡三座の中に「伊加保神社・甲波宿禰神社」が載る ・「延喜式四十八・左右馬寮・御牧」の上野国の中に「有馬島牧」の名前あり		
		931年（承平元年） ・この頃、「倭名類聚鈔」の群馬郡の中に「有馬」の名が載る		
	935年 ・承平天慶の乱 ・地方に武士起る			
			968年（安和5年） ・「かほやかぬま」「いかほの沼」の2首の歌が堀川院百首に詠まれる。また藤原仲実が「かほやかぬま」を詠む	
	985年 ・往生要集成			
	1001年頃 ・枕草子成る			
	1010年頃 ・源氏物語成る			
	1017年 ・藤原道長、太政大臣に ・藤原氏全盛			
	安		1030年（長元3年） ・「上野国交替実録帳」に「正一位伊賀保神社」と記載される	
1086年 ・白河上皇の院政始る ・この頃、源義家が武士の棟梁として威を張る				
1156年 ・保元の乱				
1160年 ・平治の乱				
1167年 ・平清盛、太政大臣に				
1185年 ・平氏滅亡				
		1189年（文治5年） ・当地の有力一族の渋河兼保が、源頼朝による奥州藤原氏征討に従軍する		
		1190年（建久元年） ・渋川弥五郎、源頼朝上洛の供奉（ぐぶ）人となる		
鎌倉時代		1192年 ・源頼朝、征夷大将軍に（鎌倉時代はじまる）		
			1195年（建久6年） ・渋河兼保、源頼朝の東大寺開眼供養上洛時の供奉人となる	

時代	国史	政治	文化
鎌		1200年（正治2年） ・ 渋川次郎、梶原景時追討のため北条方に加わり、景時の家人4人を討ちとる	
		1203年（建仁3年） ・ 渋河刑部丞、比企能員の乱で能員の舅であることにより誅殺される	
	1205年 ・ 新古今和歌集成る	1205年（元久2年） ・ 渋河武者所、畠山重忠の乱に鎌倉幕府方として従軍する	
		1213年（建保元年） ・ 渋河兼守が泉親衡の謀反に組し、生虜となり安達景盛に預けられるが、荏柄天神に和歌10首を奉納、処刑を許される ・ 渋川氏一族、和田義盛の乱に加担し誅殺される	
	1219年 ・ 北条氏執権政治始る		
倉	1221年 ・ 承久の乱	1221年（承久3年） ・ 承久の乱に際し、渋河中務、白井小太郎、物射二郎らが鎌倉幕府軍に従軍する	
		1244年（寛元2年） ・ 渋河弥次郎、鶴岡八幡宮の奉納競馬（くらべうま）に出場する	
		1251年（建長3年） ・ 里見氏義、宮田（赤城村）の石造不動明王を造立する	
		1269年（文永6年） ・ 渋河泰忠、北条時宗より鞍負尉への任官伝達の教書を賜る	
	1274年 ・ 文永の役で元軍来襲		
時		1276年（健治2年） ・ この頃、里見一族の烏山氏が南波多岐庄を領地とし、南越後に勢力を広げる	
	1281年 ・ 弘安の役で元軍再来		
		1298年（永仁6年） ・ 「上野国神名帳」に総社大明神之摂社として「岩根（甲波宿禰）、若伊賀保大明神」、また群馬郡之内東郡之部に「有馬渠口、堰口、堰口御嶽」の各明神が載る	
		1307年（徳治2年） ・ 渋河次郎左衛門入道、円覚寺大齋の詰番を勤める	
	1333年 ・ 鎌倉幕府滅ぶ	1333年（正慶2年） ・ 新田義貞挙兵、鎌倉方を攻める。越後より里見氏、烏山氏参戦 ・ この戦乱で白井太郎一族は鎌倉方につき千早城攻めに参加する	
代	1334年 ・ 建武新政	1334年（建武元年） ・ 渋河義季が北条方の本間、渋谷らの挙兵を平定する	
		1335年（建武2年） ・ 渋河義季が武蔵国女影原にて北条時行と戦い、破れて自害（中先代の乱）。この時、渋川地方の武士も多く討死する ・ 足利尊氏が吉川経頼に白井太郎左衛門尉の所領をあてがう	